



現代人にとって念仏とは、先祖供養や願いごとをかなえるために言う言葉、もしくは極楽への合言葉くらいにしか受け止められていないのではないのでしょうか。伝える側も「なぜ念仏を称えるのか」にきちんと応えられていない現状に危機感を抱いています。

念仏は呪文ではありません。そのいわれを知らずに、口で称えただけでは生きる元気は出ないと考えます。

もともと念仏とは、阿弥陀仏のお姿や功德を思い浮かべる「観想念仏」という仏教の行の一つでした。そして観想を否定した法然上人によって、南無阿弥陀仏と称える称名念仏が広まりました。それを親鸞聖人が、信心の内実として念仏を位置付けたところに真宗の独自性があると考えています。ですから「声に出して念仏を申すこと」にとどまる現代の法話は、法然上人の時代に逆戻りしていると思うのです。

仏教が日本に於いて一般庶民にまで広まった理由の一つに、自然の豊かさがあると指摘されます。山川草木に富み、四季があり、生きものがたくさん息づいています。人々は自然の中で暮らし、作物を育て、狩りや漁をし、他者のいのちと共存しました。そしてその中に「人知を超えた存在」を見出して尊び、怖れ、感謝し、敬つ

勝敗よりも相手よりも、もっと大切な「人知を超えた存在」に対して頭を下げる感性が、我々日本人の中に備わっているのです。

私たちは、たましいを成長させるために生まれてきた、と考えます。楽しいこと、悲しいこと、辛いこと、感動したこと等をいっばい経験して豊かになるために。そしてそのために、全力で応援して下さる「人知を超えた存在」を

# 念仏は自分自身に 言い聞かせる言葉

住職 樋口祐慈

てきたのです。

古来日本人は、この「人知を超えた存在」を「仏さま」「神さま」「ご先祖さま」「お天道さま」などと呼んで、自分たちを照らす存在として大事にしてきました。

日本のアスリートは試合の始まる前と終わったあと、グラウンドやコースに向かい必ず一度立ち止まってお辞儀をします。これは欧米の選手には見られない行為です。

超えた存在」を仏教では「阿弥陀」と名付けました。

阿弥陀は生きとし生ける存在を「えらばず・きらわず・みす

てず」成長させたいと願い続ける存在です。つまり、すべての人に起こるありとあらゆる出来事は、それぞれのたましいを成長させるために阿弥陀から送られたもの、ということなのです。

自分にやって来たすべての縁を「これはたましいを成長させるために阿弥陀仏が与えてくれた大事な課題なのだ」と受け止めることを「信心」といいます。その縁が

自分の望まないものであったり逃げ出したくなるようなものでも、です。なので『聞』前号で紹介した「元服」の作者のように、試験に落ちた現実を「本当の人間にするために天が僕を落としてくれた」と納得して引き受けることが「救い」となります。思い通りになることや希望が叶うことは、煩惱が満足することであって、救いではありません。生まれてきた真の目的ではないからです。

ただ縁はたましいを成長させるための縁であり阿弥陀の願いだから「本願」「弥陀の本願」と言うのです。

身に降りかかった現実を、逃げてたり人のせいにしたりに受け入れられないことを「自力」といいます。自分の考え、価値観に固執するからです。反対に、やって来た現実の中で精いっぱい出来ることをする生き方が「他力」です。

とはいえ、現実が受け入れ難いものは、納得できないものであることは多々あることです。その時に必要なのが念仏なのです。「指差（ゆびさし）呼称」とは、危険予知活動の一環として行う行動のことです。これから作業する目の前の対象や、標識や信号、計

器類等に作業者が指さしを行い、その指さしたものの名称と状態を声に出して確認するのです。安全確認が重要な幅広い業界で行われています。要するに、目の前の作業をもっとも確実に遂行する方法は、やっていることを声に出して自分で聞くことであると。

現実が引き受けられない、頭で分かっているても感情がつかないという時、「南無阿弥陀仏」と声を出して自分の耳で聞くのです。「南無」は「したがいませぬ」「おまかせします」という意味になります。「これは自分のたましいを成長させるための試練なのだ」「阿弥陀さまからの激励なのだ」と自身に言い聞かせるために称えるのが念仏なのです。

一方、念仏は「双方向のコミュニケーション」とも言われます。こちらが念ずる以前から、阿弥陀の世界からずっと呼び続けられていたのです。ですから念仏は、現実を引き受けるぞという決意表明と同時に、阿弥陀の世界からの「育ちなさい」という願いの一つになることを意味します。

やって来た縁に対して一生懸命、精一杯応えて生きること。これが念仏の生活なのです。



**秋の法話会**

2022年10月28日

東城百合子師の教えと実践を  
料理教室名物講師米沢佐枝子師

継承されたあな健  
講演と自然療法実演会開催

**行事写真報告**

昨年10月から  
今年6月まで



手作り健康食弁当



第31代阿彌婦人会



ミニマルシェ



本龍寺合唱団



お灸を楽しむ会



～ハツとしたとき出るエッセイ～



# 坊守のひとりごと



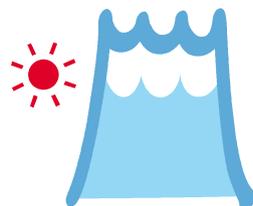
愛知県安城市和泉町中本郷41

2023年1月9日号

## 「我が家にコロナがやって来た」

半年ほど前に「我が家にコロナがやって来ました！」と、写経の会とお灸の会に毎月来ているIさんから明るいLINEが入りました。要するに欠席の連絡です。型どおり「たいへんですね。お大事に。」と返信しましたが、今になって思うとこの爽やかな彼女のものごとの受け止め方に心の広さを感じていました。

実は我が家にもコロナがついにやって来たのです。昨年12月後半、家中が何となく風邪っぽく咳が出ていました。誰も熱がないのでコロナを疑う状況ではありませんでした。梅酢やビワ葉焼酎でうがいして、毎日ビワ葉温灸をしながら、何の支障もなく生活していました。



高校教諭をしている長男がやっと冬休みに入り、4回目のコロナワクチンを打ちました。過去3回と同様に翌朝から発熱して終日寝込みました。今までの疲れとワクチンの副反応だと家中が考えていました。数日しても熱が下がらないので、念のためPCR検査を受けると陽性に。家族は当然、濃厚接触者となってしまいました。



時は大晦日、大騒ぎとなりました。お正月の準備はすべて整っていましたが寺役さんと電話で相談し、まずは関係箇所<sup>ライン</sup>の徹底消毒。除夜の鐘は「ご自由におつき下さい」の看板を出して元旦の新年<sup>しゅうしやうえ</sup>修正会はキャンセルに。あらゆる方面に連絡を取り、本堂とお庫裏<sup>くり</sup>玄関に事の経緯と対応を記した「緊急のお知らせ」を貼り出しました。寺族は全員、じっと家に籠りました。

毎年の年末年始は、連日の大掃除、餅つき、おせち作り、新年修正会の準備、娘たちの着付け準備…。除夜の鐘が深夜1時半ごろ終わり、片付けて就寝が2時過ぎ。4時半起床で着付け開始。新年修正会と年始挨拶であっという間にお昼…。考えてみると確かに重労働で、プレッシャーも半端ありませんでした。今回すべての行事が中止になった時、ホッとして胸をなで下ろしたのも正直な気持ちでした。

お庫裡の窓から、たくさんのご家族が帰省された若い人たちと連れだってお墓参りをし本堂に入っていく様子を見つめていました。境内に出ることも人と直接出会うことも出来ない状況は、とても辛く感じました。あの重労働は、新年を迎える幸せの種だったと知らされました。

しばらくすると、電話やLINEで「うちも去年秋にコロナになって…」とか「うちは昨年12月に…」とか「現在、隔離中…」という情報がどんどん入ってきて、みんな同じ思いをされていることが分かりました。コロナを、何もなく過ごせる日常が本当に有り難いことを、せめて再確認するご縁にしたいものです。

坊守 樋口頼子



**味噌作りの会**



2023年2月1・3・5・9・10・19日 71名参加で大豆2.5kg × 53樽 = 132.5kgの美味しい手作り味噌が誕生



**春季彼岸会**



**永代祠堂法要**

3月20・21日 法話は 讓西賢師と拙寺住職



ぼたもち



諸殿拝観



3月24日 日曜学校卒業生による 京都・東本願寺への日帰り研修

**子ども上山研修**



青蓮院参拝



御影堂



白書院



誕生児初参り式



キッチンカー



マルシェ出店



雨のため同朋会館で



混成本龍寺合唱団



歴代同朋婦人会物故者追弔会



お寺の売店



倉知誉ジャストリオ

午後:ジャズコンサート

# 本廟奉仕&帰敬式受式

6月9~10日 京都・東本願寺の研修に1泊6名、1日7名参加。帰敬式を受式しました。



諸殿拝観



帰敬式受式



副会長・感話発表



食堂



清掃奉仕



話し合い



青蓮院参拝



13名の方が参加して下さったことが何より嬉しかったです。朝夕の勤行、諸殿拝観、清掃奉仕、講義、座談、食事、入浴、就寝、すべてがあつての上山研修だといづく感じました。私が法名を頂いた時の感動を今回受式の皆さんと分かち合えて、本当に有り難いことでした。

坊守 樋口頼子

自分の法名を頂いて、これからの将来が自信というか安心を持って生きていける気がします。仏さまの教えに照らされて、自分自身を点検しながら、聴聞して生きていきます。

会計 兵藤久美子

御影堂門の清掃奉仕や諸殿拝観を通して、来る前の自分とは全く気持ちの持ち方が変わったと感じます。今後の自分の人生を、日々の生活を見直して歩んでいきたいと思えます。

会計 沓名真知子

一泊二日参加者の感想文より  
とても有意義な二日間でした。諸殿の数々を見学できたり、夕事勤行後の感話をさせていただいたり、よい思い出となりました。この研修で同朋婦人会の皆さんとの「和」がふくらみ、大変嬉しく思いました。

副会長 神谷みよ子

# 本堂葬儀・いずみプランのご案内



本龍寺本堂での葬儀に特化したスタッフと組織、プランをご用意しました。同一内容では業界最安値、どこよりも親切で手厚いお世話を提供します。緊急の時、他の葬儀社に電話をしてしまうと本プランが使えないのでご注意ください。手軽でリーズナブルだと思われる家族葬ホールは、最終的にたいへん高額のコストがかかることが判っています。伝統的で厳粛な、かつ地元での葬儀をぜひご活用下さい。

◎プラン内容 … 373,600円

※税込、追加料金ありません  
※2023年7月現在の価格です

霊柩車搬送2回・布張お棺・納棺の儀（死化粧含む）・ドライアイス  
2回・骨箱位牌一式・遺影写真・祭壇まんじゅう 饅頭一式・蠟燭線香ろうそく・焼香  
道具ちゅういんだん・中陰壇・担当受付スタッフ・シルバー2日間・手続代行・他

※人数により変動するもの（通夜返礼品・会葬礼状・香典返礼品・通夜食・昼食・引出物他）は別途料金です

◎布施等の目安 … 葬儀布施（枕直し・出棺・通夜・葬儀・還骨・初七日・二七日・三七日・四七日・立日）20～30万円、  
本堂・同朋会館・通夜葬儀飾り一式使用料5万円、葬儀役僧礼3万円、司会礼3万円

◎収容人数 … 椅子席最大250席、本堂内収容最大300人 ※小規模・少人数にも対応できます

◎駐車場 … 100台完備 ※境内34台、第1駐車場18台、第2駐車場35台、第3駐車場13台



## もしもの時は直接お寺へお電話 (0566-92-0505) 下さい

※病院でご臨終の場合、深夜でもすぐの搬送を指示されます ※真夜中や早朝でも構わずお電話下さい

※専任スタッフからすぐに折り返しの電話が入りますので、具体的なアドバイスに従って下さい

※365日24時間、ご遺体の搬送手配が出来ます ※ご事情によりお寺でご遺体のお預かりも出来ます

※ご要望等スタッフにお申し付け下さい ※事前ご相談や費用見積などもお問い合わせ下さい



あ  
と  
が  
き

第77号をお届けします。とうじょうゆりこ  
東城百合子先生が繰り返し繰り返し叱って下さった「何があってもいい、そこから育てばいいのよ!」というお言葉が、南無阿弥陀仏の教えそのものだったと思われるではありません。お亡くなりになってもなお、先生のねがいや祈りが今現に届いていることを実感しています。〈頼〉